

# 八尾歴史物語

五十巻

河内名所図会をあるく③（東高野街道・後編（恩智））

『河内名所図会』（以下「図会」）

を片手に、前方後円墳の郡川西塚古墳を眺めつつ、東高野街道を南に進むことにしましょう。進むと、聖徳太子ゆかりの寺「教興寺」があります。街道沿いには、

教興寺をはじめとして、智識寺（柏原市）など多くの寺院が造られました。このことから、東高野街道が古代から使われた重要な道であったことが分かります。

街道を進み、垣内村を抜けると、松の木が植えられた古墳のような土壇が街道の両側に見えます。これが江戸時代、街

道に一里（約4km）ごとに整備された一里塚です。人々はこれをおく目安にして旅をしました。現在、東高野街道には、八尾と富田林に残っています。

さらに南へ進むと、左手に立派な鳥居が見えてきます。河内国二の宮とよばれた恩智神社の参道です。東に折れて神社に参



図会に描かれた恩智神社

ることにしましょう。図会では、恩智神社の長い石段が4ページにわたって描かれています。恩智神社の本殿は、玉祖神社の本殿とよく似た切妻造の屋根で、神社建築では珍しいものです。

一般的にみられる春日造の本殿と描き分けているところは、図会の観光ガイドブックとしての正確さをよく示しています。

石段を下り、再び東高野街道に戻ります。恩智神社の参道と東高野街道が交わる南西の角地にある萩原家住宅は、令和元年9月に国登録有形文化財になった旧家で、江戸時代後期の大和棟の主屋を中心とする屋敷構えは、この地の歴史景観を今に伝えています。

ここ恩智神社で、図会をもとにした東高野街道の旅を終わりとしましょう。

☆問合せ 文化財課

☎ 924・8555

☎ 924・3995